

広島港利用高度化検討会（第3回）の開催結果について

〔 令和 2年 7月 31日
港湾漁港整備課 〕

1 概要

平成 30 年 9 月に策定した広島港長期構想において、特に緊急的な取組が必要な事項として、クルーズ機能の充実（宇品）と外貿コンテナ機能の強化（出島）が求められていることから、これらの施策の具体化に向けて「広島港利用高度化検討会」（以下「検討会」という。）を設けており、第3回の広島港利用高度化検討会（以下「検討会」という。）を開催したので、その結果を報告する。

2 第3回検討会について

(1) 会議方式 書面による

(2) 構成員 裏面のとおり

(3) 議事概要 クルーズ機能の充実（宇品）と外貿コンテナ機能の強化（出島）の具体化に向けた方向性について、取りまとめを行った（参考資料②）。

(4) 出席者からの主な意見

分野	主な意見
クルーズ	<ul style="list-style-type: none"> ① 引き続き、戦略的なクルーズ船誘致、受入体制の強化に努める必要がある。 ② 宇品地区のクルーズ受入機能の強化が図られ、港のにぎわい創出や観光振興にもつながる。
物流	<ul style="list-style-type: none"> ① 大型コンテナ船の寄港を実現させ、輸送費の軽減を図る必要がある。東南アジア方面の直行便サービスの誘致を期待している。 ② 東南アジア航路寄港のため、物流用地の迅速な確保などにより、取扱貨物量を増加させる必要がある。 ③ 消費財などの輸入貨物の取扱増加に向けて、高度な物流機能を持つ倉庫の確保が必要である。 ④ 出島の取扱貨物量の増加に伴い、トラック・トレーラーの交通量の増加も予測される。交通量が増加した場合には、臨港道路の整備も検討してほしい。 ⑤ コンテナターミナルの整備においては、取扱貨物量の増加に合わせてコンテナ置き場の確保や先進技術を用いた物流の効率化についても検討したほうが良い。

3 今後の予定

取りまとめた方向性を踏まえ、経済界等の関係者と連携して、出島地区外貿コンテナ機能の強化の事業化について国へ要望していくとともに、宇品地区の整備を進めていく。

広島港利用高度化検討会 構成員名簿

(敬称略・順不同)

区分	氏名	所属・役職
学識経験者	戸田 常一	安田女子大学教授
経済団体	池田 晃治	広島商工会議所会頭
	荏田 知英	(一社) 中国経済連合会会長
関係企業	木原 学	マツダ(株)生産管理・物流本部調達物流部部长
港湾関係者	西山 寛	中国地方港運協会会長
	綱島 秀之	広島地区港運協会会長
関係行政機関	坂井 功	中国地方整備局港湾空港部長
	正岡 孝	中国地方整備局広島港湾・空港整備事務所長
	中村 純	広島市都市整備局長
	松村 順太	(株)ひろしま港湾管理センター常務取締役
	山本 貴弘	広島県土木建築局空港港湾部長
	倉本 聡	広島県広島港湾振興事務所長